

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

基本方針：1. 市民参画・市民協働の一層の推進

重点事項：(1) 行政情報の積極的開示、市民との共有化

取組項目：①市民が市政に関心を寄せる情報発信の推進

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|--|--|---------|
| 1 | ・市民一人ひとりが水害の危険箇所を認識し、常日頃より防災意識を持つよう、津波ハザードマップ及び洪水ハザードマップを広報紙や防災メール、自主防災組織の訓練を通して広く周知する。 | ・洪水ハザードマップ（地蔵川）を作成し、市内全戸配布を実施した。また、市内2地区で津波避難訓練を実施して、約100名が参加した。さらに、各地区自主防災組織の訓練に防災担当職員が参加し、各種ハザードマップの説明を行った。 | ・洪水ハザードマップ（地蔵川）の全戸配布、津波避難訓練及び自主防災組織の訓練を通じて、市民の災害に対する防災意識の向上を図ることができた。 | 地域防災対策室 |
| 2 | ・市の取り組み等に対する市民の理解を深めるため、多様な媒体や機会を利用し、地域経営及び自治体経営に関する市長の考えについて情報発信を行う。 | ・年間を通して、市長発言の発信や全国市長会会長の動きなどを広報そうまや市ホームページを通して発信を行った。 | ・市長あいさつ等の公開は市長の考え、市の方針や取り組みを市民に伝える機会であり、市民とのコミュニケーションや市政への関心向上が図られた。 | 秘書課 |
| 3 | ・市民一人ひとりにごみに関する意識づけをするため、ごみの分別の徹底・減量化とリサイクル体制の更なる推進を図り、継続してごみの減量や再資源化について情報発信していく。 | ・広報そうまへの記事掲載やチラシの配布、転入者へのハンドブック配布等の情報発信を行った。 ・生ごみ処理機等への補助を行った。 生ごみ処理容器への補助：5件、11,700円 電動式生ごみ処理機への補助：7件、160,200円 | ・災害の影響があったものの、ごみの量は前年の14,224トンから11,400トンへ減少した。 | 生活環境課 |
| 4 | ・議会だより、議会報告会、市議会ホームページ、本会議映像配信（中継・録画）等により、市議会の活動内容を発信する。 | ・これまで取り組んでいた議会だより、議会報告会、議会ホームページでの議会情報発信及び本会議録画映像の配信に加え、本会議中継映像の配信を開始した。 | ・令和5年9月定例会から令和6年3月定例会までの本会議中継映像への接続回線数は139（視聴回数:1,194回）であり、同時期の傍聴者数が144名であることから、より多くの市民に対し、リアルタイムに議会の様子を伝えることができた。 | 議会事務局 |

基本方針：1. 市民参画・市民協働の一層の推進

重点事項：(1) 行政情報の積極的開示、市民との共有化

取組項目：②自治体経営情報の適正な発信

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|--|--|-----|
| 1 | ・行政経営システムの取り組みとその成果を市民に公表して共有するとともに、それを市民に評価してもらうことで事務事業の精度と行政サービスの質を向上させる。 | ・各部署が重点的に取り組む事業として登録した業務目標について、令和4年度の成果を市ホームページで公表するとともに、令和5年度の業務目標も併せて公表した。 | ・各部署の重点事業に対する目標及び成果を市民に公表することで、事務事業の透明性を図ることができた。 | 総務課 |
| 2 | ・市の財政状況を誰もが容易に知ることができるような様々な媒体を通して公表し、市財政への市民の関心や理解を深める。 | 以下のとおり財政状況を公表 ・広報そうま4月1日号：令和5年度当初予算の概要（ホームページも掲載） ・広報そうま6月1日号：令和4年度予算執行状況（ホームページも掲載） ・広報そうま12月15日号：令和4年度決算（ホームページも掲載） | ・公表するにあたり、わかりやすい内容（予算を一般家庭に例えるなど）に努めたことで、市民の財政に対する関心・理解を深めることに寄与できた。 | 財政課 |

基本方針：1. 参画・市民協働の一層の推進

重点事項：(2) 市民参画・連携・協働の推進と適正化

取組項目：①市民参画・市民協働の促進

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|--|---|---|-------|
| 1 | ・市民が積極的に行政活動へ参加できるようにするため、行政区未加入世帯が行政区へ加入しやすくなる取り組みを検討、実施する。 | ・行政区長を対象に、行政区の運営や活動状況等についてアンケート調査を実施し、結果をフィードバックすることで、行政区長と情報共有を図ったほか、高い自治会加入率を維持する茨城県龍ヶ崎市の自治会運営に関する取組について、相馬市区長会として視察研修を実施した。 ※区長アンケート回収率71件（93.4%）、視察参加者33名（43.4%） | ・行政区長へ行政区運営の検討に繋がる情報を提供できたことで、将来的な行政区加入者の増加による市民参画の促進が期待できる。 | 総務課 |
| 2 | ・事務事業を継続的に改善するため、相馬市外部評価委員会等を活用して行政活動への市民参加の機会を設け、事業の評価を行う。 | ・8名の委員(学識経験者6名、市民公募2名)による全6回の委員会を開催し、市の重点施策から抽出した21事業を評価。評価結果は、A評価が8事業、B評価が13事業であった。評価結果、総評及び委員会コメントを市長に報告し、広報そうま2月1日号で市民に公開。庁内においても全職員に結果をフィードバックした。 | ・外部評価委員会は、市の行政経営システムを構成する一要素としての役割を担っており、市民目線で市の事業を客観的に評価することにより、市が実施する行政評価の客観性と信頼性を確保する効果があった。 | 企画政策課 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

基本方針：1. 市民参画・市民協働の一層の推進

重点事項：(2) 市民参画・連携・協働の推進と適正化

取組項目：②NPO法人や地域団体との連携強化

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|---|---|---------|
| 1 | ・市民が安心して地域で生活できるよう、防災訓練の実施を支援するなど自主防災組織との積極的な連携を通じ、地域の防災力向上を図る。 | ・各地区自主防災組織の訓練に防災担当職員が参加し、各種ハザードマップや防災メールの活用などについて説明を実施した（市内11地区）。 | ・各地区で自主防災組織の訓練が実施されたことにより、地域の防災力の向上を図ることができた。 | 地域防災対策室 |
| 2 | ・人命救助には、地域の救急・救助体制の整備が重要であるため、関係団体と連携して普通救命講習の実施を支援することで、互いに助け合える体制を構築する。 | ・救急ボランティア相馬フレンズへの補助金交付及び広報そうまで活動を周知することにより支援を行った。 | ・救急ボランティア相馬フレンズへの活動支援を通じ、救急救命の大切さやAEDの操作方法に関する知識を持つ市民を増やすことができた。 | 地域防災対策室 |
| 3 | ・交通事故の発生を防ぐため、市民と地域ボランティアが一体となって交通安全に関する普及活動を行い、市民一人ひとりの交通事故対策への関心を高めていく。 | ・地区住民で組織される駅前自転車等駐車場指導員と連携し、相馬駅前自転車等駐車場の主な利用者である高校生への指導及び適正利用の啓発を実施した（4月～3月の期間で毎週月水金に実施。ただし、長期休暇期間中や悪天候時は除く。）。 ・交通安全協会などと連携し、年間を通し交通安全を呼び掛ける街頭啓発を実施した（11回実施）。 | ・相馬駅前自転車等駐車場において出入りが最も多い朝の時間帯に、自転車利用者による自転車の適正利用やあいさつなどの声掛け、駐車場内の見回りをを行い、交通安全の呼びかけを行った。 ・市内店舗や学校においては、直接の声掛けによって交通安全を呼び掛けることができた。また、公式SNSを利用し、登録者に対しても交通安全を呼び掛けることができた。 ・上記を通じ、各種団体との連携強化が図られた。 | 生活環境課 |
| 4 | ・相馬市・新地町地域自立支援協議会において、委員である関係機関、関係団体、行政、福祉、医療、教育、雇用に関連する関係者、障がい者やその家族が情報を共有し、相互に連携を図り、協働で障がい者等への支援体制の整備を図る。 | ・令和5年度より、地域自立支援協議会が新地町との共同設置となり、第1回協議会全体会を7月7日に開催（参加者25人）、第2回協議会全体会を2月20日に開催（参加者25人）し、地域における障がい者等への支援体制に関する課題について情報共有を図った。また、各専門部会を開催し（権利擁護部会6回・就労支援部会12回・子ども支援部会11回・地域包括ケア検討部会6回）、各部会において現在の課題等について情報共有及び検討を行った。 | ・令和5年度より新地町との共同設置となったことから、協議会全体会において、新地町から委託を受けた相談支援事業者からの実績報告や意見等を聞くことができた。相馬市以外の状況等を聞くことで、共同設置の有効性を認識し、広域的な支援体制の構築に繋がった。また、各部会においても新地町の事業者の参加により、これまで以上の意見交換や活動ができた。 | 社会福祉課 |
| 5 | ・絵本の読み聞かせ会を実施するボランティア団体「おはなしの部屋」の活動を支援するとともに、広報紙等を通じて読み聞かせ会への参加者を増やす。 | ・おはなしの部屋：ボランティアスタッフ12名により、毎月第1土曜日と第3月曜日に読み聞かせを開催した。年間で延べ310名（子ども：186名、大人124名）の市民が参加した。 ・てんとうむし：月に1回、点字本を図書館に寄贈していただいているが、これまで点字本を印刷するための点字プリンターが経年劣化により頻りに故障しており、作業が中断することが多く、寄贈していただける点字本の数にも限りがあった。令和5年度において、点字プリンターを新たに更新したことで作業効率がアップし、年間52冊の点字本を寄贈していただくことができた。 | ・おはなしの部屋：技術向上のため、Web研修などへの参加を働きかけたことで、通常の読み聞かせ会のほか、8月に『こわ〜い話』の読み聞かせ会を開催できた。 ・てんとうむし：点字プリンターの更新により、処理速度が改善し、作業負担を軽減することができ、多くの点字本の寄贈に繋がった。 | 図書館 |

基本方針：2. 自治体経営の基盤強化

重点事項：(1) 財政の健全性維持

取組項目：①長期財政計画の策定と見直し

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|--|---|-----|
| 1 | ・各種事業の必要性、効率性、有効性を検証し、事務事業の合理化と類似事業の整理統合を図り、健全な長期財政計画を策定する。 | ・昨今の物価高騰や令和4年福島県地震被害等の影響を踏まえ、今後15年間の財政シミュレーションを作成し、副市長・市長への説明を行った。 | ・財政シミュレーションの概要について、庁議、課長会及び当初予算編成方針説明会を通じて庁内へ情報共有したことで、職員の市財政に対する理解力及び意識向上に寄与できた。 | 財政課 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

基本方針：2. 自治体経営の基盤強化

重点事項：(1) 財政の健全性維持

取組項目：②自主財源の確保及び内部留保の維持

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|--|--|--|-------|
| 1 | ・市税収納率向上のため、コンビニ納付やスマホ決済などを利用した納付手段の多様化と、デジタル技術を活用した効果的な納税勧奨の検討を進めることなどによる未収金の削減に取り組む。 | ・固定資産税及び軽自動車税でQRコードを用いたスマホ決済を実施。また、SMSを活用した納税催告サービスの導入を検討。結果、「紙催告の中止等によるスクラップアンドビルドとすること」、「市全体で使用できるサービスのため、広がりを見せる動きとすること」等、課題が見えてきたことから、導入については保留となった。 | ・従前の納付方法は、コンビニ納付、市役所来庁納付及び銀行納付に限られていたが、固定資産税及び軽自動車税に限り、QRコードを納付書に付与し、電子マネーやクレジットカードで納税することが可能となり、住民サービスが向上した。しかし、SMSを活用した納税勧奨は、検討したものの、課題解決に至らず保留となったため、収納率向上による自主財源の確保には繋げることができなかった。 | 税務課 |
| 2 | ・企業誘致活動を推進し、未分譲の工業団地区画を売却することで、自主財源を確保する。さらに、工場の新増設による市税の増収につなげる。 | ・相馬中核工業団地東地区1区画、同西地区1区画を企業2社に売却し、837,405,000円の自主財源を確保することができた。 | ・2区画を売却したことで、今後、工場建設等による固定資産税の増収に繋がるとともに、新たな雇用創出に繋がることで、今後の定住人口等の増加にも期待できる。 | 商工観光課 |

基本方針：2. 自治体経営の基盤強化

重点事項：(1) 財政の健全性維持

取組項目：③事業目的等を見極めた歳出の見直し

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|--|--|---|-----|
| 1 | ・歳出の適正化に向け、新規事業の予算要求時にはその必要性や優先度等を見極め、既存事業の抜本的な見直しを行うなど、徹底したスクラップ・アンド・ビルドにより予算を計上する。 | ・令和6年度当初予算編成説明会を開催し、財政シミュレーションの概要について情報共有するとともに、予算要求の際には、事業の見直し等を必ず実施するよう説明した。 | ・令和6年度当初予算査定において、原課と調整し、一部事業を見直したことで、歳出削減に繋がった。 | 財政課 |

基本方針：2. 自治体経営の基盤強化

重点事項：(1) 財政の健全性維持

取組項目：④地方債発行額の適正化

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|---|---|-----|
| 1 | ・中長期的な公債費負担を考慮し、地方債発行額の適正化を図るとともに、低利借入等による利子負担の軽減を図る。 | ・令和5年度起債発行額746,300,000、令和5年度起債償還額1,959,623,000円であり、年度末残高が1,213,323,000円減少した。発行額は令和4年福島県沖地震の災害復旧事業が概ね完了したことで、令和4年度から大きく減少し、償還額は令和6年度をピークに減少する見込みである。 | ・地方債は、後年度への財政負担を伴うことから、借入にあたって、事業内容を確認するとともに、起債充当率、交付税措置及び利率が有利な地方債を選択したことで、市財政への負担軽減に繋がった。 | 財政課 |

基本方針：2. 自治体経営の基盤強化

重点事項：(2) 組織の効率的運営

取組項目：①組織機構の積極的な見直しと部門間連携の強化

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|---|--|-----------------------|
| 1 | ・市民の行政手続き等におけるサービス向上に繋げるため、こどもに関する業務を集約するとともに部門間の連携を図る。 | ・学校教育課で所管していた学校幼稚園の入退園に関する事務及び保育料に関する事務をこども家庭課へ移管した。しかし、生涯学習課で所管する青少年健全育成に関する事務等は、令和6年度の継続協議となった。 | ・こどもに関する業務を集約するにあたり、行政事務改善委員会幹事会を都度開催し、集約に向けた課題の洗い出しや意見交換を実施したことで、関係部署以外からも様々な意見を聴取でき、スムーズな事務移管に繋げることができた。 | 総務課 保健福祉部 教育委員会 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

基本方針：2. 自治体経営の基盤強化

重点事項：(2) 組織の効率的運営

取組項目：②職員の定員管理の適正化

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|--|--|--|-----|
| 1 | ・定年退職年齢の引き上げによる影響も考慮し、計画的な採用及び必要性に応じた職員配置を行っていく。 | ・新規採用について、一般行政職は概ね予定通り採用できたものの、土木技師や保健師などの専門職については、応募が無かったこと及び内定辞退により、採用することができなかった。 | ・新規採用及び退職の結果により、令和6年4月1日現在に予定していた職員総数に不足を生じたが、その人数の範囲内で、可能な限り、適正な職員配置を行った。 | 総務課 |

基本方針：2. 自治体経営の基盤強化

重点事項：(3) 職員の意識・能力向上

取組項目：①状況の変化に対応できる職員の育成

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|--|---|-------|
| 1 | ・人材育成基本方針に基づき、グループワークなど対話型の研修を増やすなどにより、状況に応じた考える力を養うことで、学んだことを現場で活かせる職員の育成を目指す。 | ・令和5年10月に、人材育成基本方針を改定し、「多様な市民ニーズに対応できる職員」、「多様な主体と連携・協働し地域の課題解決に取り組む職員」、「業務の効率化・質の向上を追求する職員」を育成することが今後の方向性として決定した。各種研修では、グループワークの機会を増やし、受け身ではなく、主体的に考える職員の育成を図った。 | ・主体的に考える研修を増やしたことで、今後の窓口対応、各種会議及び行事等の場面において、職員が臨機応変に対応できることが期待できる。 | 総務課 |
| 2 | ・情報システム担当職員等がデジタル技術の専門研修を計画的に受講することで、デジタル化の進展に対応できる職員の育成を図る。 | ・情報政策課5名で、情報セキュリティに関する研修3件及びサーバ管理・ネットワークシステム管理等に関する研修8件の専門研修を受講した。 | ・現在運用しているサーバ及びネットワークシステムの管理運用のために必要な知識、並びに情報セキュリティ対策及びサイバー攻撃に対する防御方法等に関する知識の習得と経験が得られた。 | 情報政策課 |
| 3 | ・高齢者の権利擁護制度を理解し、支援が必要な高齢者に寄り添える「気づく力」を持つ職員を研修等を通じて育成する。 | ・認知症や成年後見に関する研修会や勉強会を実施した。 認知症サポーター養成講座（令和6年1月開催 参加者24名） 成年後見制度に関する研修会（令和5年7月開催 参加者16名） 成年後見制度に関する勉強会（令和5年5月開催、参加者4名 令和5年9月開催、参加者2名 令和6年2月開催、参加者2名） | ・認知症がどのような病気であるか、どのような症状が現れるかを学び、行動がおかしい高齢者に対しては、声かけが必要であると理解していただいた。また、成年後見制度を学ぶことで、支援が必要なご家族に対して、丁寧な説明が必要であることが理解できた。 | 高齢福祉課 |

基本方針：2. 自治体経営の基盤強化

重点事項：(3) 職員の意識・能力向上

取組項目：②さらなる接遇の向上

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|---|--|-----|
| 1 | ・外部講師による接遇研修や新規採用職員への接遇研修、職場内での指導などを通して、質の高い市民サービスの提供や市民に寄り添った対応を目指す。 | ・令和5年6月に内部講師による新規採用職員対象の接遇研修を実施、同年10月に外部講師による全職員対象の接遇研修を実施し、日頃の対応の確認及び理解を深めた。 | ・市民からのご意見箱には、接遇に対するお褒めの言葉とお叱りの言葉が寄せられており、良い事例は継続的に実施し、指摘があった事例は改善に努めていく。 | 総務課 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

基本方針：2. 自治体経営の基盤強化

重点事項：(3) 職員の意識・能力向上

取組項目：③人事評価制度の適切な運用

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|--|--|--|-----|
| 1 | ・人事評価制度を人材育成に繋げるため、職員がコミュニケーションを通じて共通認識を図る機会として面談を確実に実施する。 | ・年度内に4回の面談（期首面談：5月～6月、中間フォロー面談：10月、期末面談：12月～1月、フィードバック面談：2月）を実施し、年間を通じてコミュニケーションを通じて共通認識を図る機会を設けた。 | ・面談の実施について、職員アンケートにおいて「自分の思いや考えを伝えられ、また上司からの励ましやアドバイスを貰えてよかった」、「普段改まって話せない上司と率直に話せたのでいい機会だった」との好意的な回答が約76%寄せられたことから、面談がコミュニケーションの場として機能しているものと考えられる（回答率69.6%）。 | 総務課 |

基本方針：3. 行政サービス・事務事業の質的向上、効率化

重点事項：(1) 市民のニーズに対応した行政サービスの提供

取組項目：①市民のニーズの積極的な把握と、行政サービスへの反映

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|---|--|--------|
| 1 | ・行政区未加入世帯の行政区への加入を進めるため、市民から行政区に対する意見を聴取し、行政区加入への課題を分析、把握する。 | ・無作為に抽出した市民1,400人（世帯）に対し、行政区に関する認識（加入、未加入の理由や、行政区活動についての意見など）についてアンケート調査を実施し、行政区加入促進のための課題分析を行った（有効回答率504件、36.0%）。アンケートの分析結果を基に、転入者に対する行政区加入の案内チラシを更新したほか、ホームページや広報そうまに行政区の活動内容等について掲載し、行政区のPRを行った。 | ・行政区加入率の向上に向けて、市民の行政区に対するニーズ（活動の透明性、運営に対する意見など）を把握することができた。 | 総務課 |
| 2 | ・行政サービスの向上に繋げるため、「市長への手紙」や「投書箱」を通して直接聴取した市民の意見を市長及び関係部署と共有するなど、市民のニーズの把握に努める。 | ・「市長への手紙」を39件受け付け、その全件を市長に確認いただき回答等を送付した。 ・「提言箱」及び「メールでの意見・質問」で受け付けた268件の意見等は、その全件を関係課等に共有し、回答等の対応を依頼した。 ・「市長への手紙」の制度、受付状況等の記事を広報そうまに掲載した。 | ・「市長への手紙」での提言・要望に対し、3件対応した（改善・修繕等）。 ・「提言箱」及び「メールでの意見・質問」での提言・要望に対し、28件対応した（改善・修繕等）。 ・上記を通じ、市民の声を行政サービスに反映することができた。 | 情報政策課 |
| 3 | ・市民の健康増進につなげるため、国保特定健診時において、市民に健診環境や勧奨方法等について調査のうえ、健診率向上に向けた課題を分析、把握する。 | ・国保連合会と連携した受診勧奨事業を実施し、未受診者の分析を行い、過去3年間に健診を1回も受診していない者、健診を1回以上受診している者に分類し、さらに生活習慣病のレセプトの有無などで7種類に分類した。また、これまで広報そうまへの掲載は実施日時のみで、健診の重要性についての説明が不十分だったため、記載内容について改善を図った。 | ・7種類の分類を基に、対応するはがきを作成し受診勧奨を行った。また、広報そうまへの掲載記事に市の健康状況を示し、それを解決するための特定健診であることを記載した結果、受診率向上につながった。（受診率：R4 46.9%、R5 48.4%） | 保険年金課 |
| 4 | ・「第7次相馬市障がい者計画・第7期相馬市障がい福祉計画・第3期相馬市障がい児福祉計画」策定に向けて、障がい者の福祉サービス利用実態や福祉に関する意識、意向を把握するための障がい者へのアンケートを踏まえ、現状にあった事業内容とし、更に市民のノーマライゼーションの理念浸透を図る。 | ・計画策定にあたり、障がい福祉事業関係者、医療関係者、行政機関等で構成する計画策定ワーキンググループを設置し、計画策定検討会を3回開催することで、各委員からの要望及び意見を積極的に聴取した。また、障害者手帳所持者、障がい福祉サービス受給者1,868人を対象にアンケートを実施し、851人から回答があり、その意見及び要望を踏まえた上で「第7次相馬市障がい者計画・第7期相馬市障がい福祉計画・第3期相馬市障がい児福祉計画」を策定した。 | ・計画策定ワーキンググループの構成員である障がい福祉事業関係者から、より身近な意見を聴取することで、現状の課題を把握することができた。また、アンケートを実施することで、相馬市への要望（経済的な負担の軽減、相談しやすい環境の整備、医療・保健・福祉に関する情報提供）等を知ることができ、計画に反映させることができた。令和6年3月に策定した際には、議会への報告、関係者への計画の配布、ホームページへの掲載を実施することで市民へ周知し、ノーマライゼーションの理念浸透を図った。 | 社会福祉課 |
| 5 | ・女性の社会進出を支援するため、放課後児童クラブ利用希望者数の実態を把握し、定員の増員や実施場所の新設を検討していく。 | ・待機児童解消のため、開催場所の検討を行ったが、通年で実施できる場所の確保が難しく、学校と調整の上、空き教室を利用して長期休暇の受入れを行った。また、次年度の利用希望者数を把握し、2ヶ所のクラブで定員を増員し、待機児童の解消を図った。 | ・待機児童0には至らなかったものの、長期休暇中に、就業家庭の待機児童受入れができたことで、女性の社会進出支援が図られた。 | 子ども家庭課 |
| 6 | ・判断能力に不安がある高齢者の生活を支援するため、介護事業所の意見聴取を通じて、成年後見制度の利用が必要な人を発見し、適切に必要な支援につなげる地域連携の仕組みについて検討する。 | ・介護事業所（15事業所）に対して調査を実施した。 認知症等で判断能力に不安がある高齢者 91名 成年後見制度に関する相談があった高齢者 1名 | ・介護事業所に成年後見制度に関する相談があった事例では、介護事業所から市に対して情報提供があり、その方について、成年後見制度の利用に繋げることができた。認知機能低下がみられる高齢者のうち、親族の支援が難しい高齢者の相談窓口を明確にすることで事業所との連携が図られた。 | 高齢福祉課 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

| | | | | |
|--|--|--|---|--------|
| 7 | <p>・公民館の各講座の受講者にアンケート等を実施し、その結果からニーズの傾向を調査分析することで、次の企画講座の検討へ活用を図る。</p> | <p>・企画講座終了後、満足度や理解度、当該講座以外の学習意欲について把握するため、アンケートを実施した。アンケート結果を分析することで、新たな企画講座の開催、開催手法の改善に繋がった。</p> | <p>・子育て世代の参加増に対し、平日午前の開催、キッズコーナーを設置した（計12回、利用幼児累計35名、相馬愛育園保育士応援累計3回3名）。</p> <p>・語学講座の立ち上げ、当初土曜午後の時間帯で開催したが、講座の需要と参加者らの要望を基に、平日夜の時間帯へ変更した。その結果、就労者や部活動後の高校生らの新たな参加に繋がり、参加者同士の学び合いも増えた。</p> | 中央公民館 |
| | | <p>・女性教室、スマートフォン教室、ウォーキング教室（移動教室）でアンケートを実施した。講座の開催時期・時間・負担費用額、企画内容の満足度、参加した動機、次回開催への要望等を調査し、次回の開催や新企画の参考とするために分析を行った。</p> | <p>・企画講座に対する満足度や改善点を把握でき、次回若しくは次年度の企画講座において、継続開催の重要性、内容等の改善検討の必要性、参加者の要望に対応した新たな企画講座計画の参考となった。</p> | 東部公民館 |
| | | <p>・お菓子作り教室、サマースクール、スマートフォン教室で、講座修了後アンケートを実施した。講座の開催時期、時間、理解度、講座関連の学習事項調査、当該講座以外の学習意欲調査を行い、結果の分析を行った。</p> | <p>・次年度計画作成時において、継続の必要性、改善、住民ニーズに対応した新たな学習機会の創設等の参考となった。</p> | 大野公民館 |
| | | <p>・公民館主催の10講座で、講座修了後にアンケートを実施した。講座の開催時期・時間・費用の是非、内容の理解度・満足度、参加の動機や感想を記入してもらい、分析を行った。</p> | <p>・同一講座の連続企画や、次年度の事業計画の際に内容の検討改善を行うことができた。過年度のアンケート結果と比較することにより、長期的な展望の参考とすることができた。</p> | 飯豊公民館 |
| | | <p>・公民館主催の11講座（そば打ち、スマホ教室等）で、講座修了後受講者にアンケートを実施した。講座の内容、参加人数、内容の理解度・満足度、感想や意見を記入してもらい、集計・分析を行った。</p> | <p>・アンケート結果を基に、企画講座の内容を検討する際の参考とした。</p> | 八幡公民館 |
| | | <p>・公民館主催のハイキング、美文字講座など8講座でアンケートを実施し、講座内容の満足度、参加のきっかけや今後受講してみたい講座などを記入してもらい、調査分析を行った。</p> | <p>・企画講座の内容では、アンケート結果から新しい講座などを取り入れ、検討の際の参考となった。</p> | 日立木公民館 |
| | | <p>・公民館で開催した企画講座（スマホ講座や料理教室など13講座）の終了後、受講者にアンケート調査を実施した。受講者からの意見や、次回開催して欲しい講座の希望を記入してもらい、それを参考に次回の講座開催の資料とした。</p> | <p>・アンケートの調査結果を基に、改善できる内容を考えて企画講座を決定し、講座を開催した。</p> | 山上公民館 |
| | | <p>・コロッケ実習、健康トランプ、和のミニ着物講座、かご作りペーパークラフト教室、スマホ講座、マヤ暦ガイダンス、ペーパークラフト実習、カレーライス実習の8講座終了後にアンケート（意向調査）を実施した。参加満足度の集約やニーズ内容を考察し活用した。</p> | <p>・アンケートのニーズ内容を考察した結果、ペーパークラフトは、予定していたかご作りからバック作りに移行した。また、新たなニーズに対応するため、次年度の企画講座においてダンスや飾り物の製作を計画実施予定している。</p> | 玉野公民館 |
| <p>・年度の初めに教室生及び来館者へ「企画講座要望アンケート」、企画講座を受講した方へ「受講者アンケート」を実施し、受講者の満足度と、受講者が求めているものを調査し、講座の内容や時期を検討した。</p> | <p>・次回開催を検討する際に調査の結果を反映させ、より満足のいく講座を開催することが出来た。</p> | 磯部公民館 | | |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

基本方針：3. 行政サービス・事務事業の質的向上、効率化

重点事項：(1) 市民のニーズに対応した行政サービスの提供

取組項目：②利便性向上に向けたICT技術利活用の促進

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|----|---|--|--|------------|
| 1 | <p>市民の利便性向上を図るため、各種申請やニーズ調査等に際しては積極的にLoGoフォーム等を活用するとともに、それに伴う行政側の手続きについても、ICT等を積極的に活用し、迅速な事務処理に努める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 市民向け事業の「もえあず米と相馬市グルメバスツアー参加者アンケート」、「相馬市青年団体連絡会 特別講演会『都市と地方をかきまぜろ』参加申込」においてLoGoフォームを活用し、合計48件の利用があった。 | <ul style="list-style-type: none"> 紙面での申請に比べて市民の利便性が向上し、集計等の業務も電子化により効率化された。 | 企画政策課 |
| 2 | | <ul style="list-style-type: none"> 相馬野馬追の出欠回答において、紙での回答に加えてLoGoフォームでの回答受付を実施した。 | <ul style="list-style-type: none"> 以前は紙回答のみだったため、転記ミスなどがあったが、約3割程度の方がLoGoフォームでの回答だったため、一定程度の効果は得られた | 秘書課 |
| 3 | | <ul style="list-style-type: none"> 令和6年1月に、マイナンバーカード未取得者に勧奨チラシを送付した際、LoGoフォームを活用してマイナンバーカード交付申請に係る意向調査を実施した。 | <ul style="list-style-type: none"> 意向調査を実施したことで、未申請の理由を把握でき、それを考慮して今後の周知方法を再検討できた。 | 市民課 |
| 4 | | <ul style="list-style-type: none"> Dシャトルへの申し込みについて、LoGoフォームを活用したオンラインによる申し込みの受付を継続した。 | <ul style="list-style-type: none"> Dシャトルの申込人数163人のうち、26人がLoGoフォームを利用した申し込みであり、市民の利便性の向上や受付事務処理の効率化やスピードアップに繋がった。 | 放射能対策室 |
| 5 | | <ul style="list-style-type: none"> 「第7次相馬市障がい者計画・第7期相馬市障がい福祉計画・第3期相馬市障がい児福祉計画」策定に向けて、障がい者へアンケートを実施する際に、郵送以外にオンライン申請システムを活用し、回答者の負担軽減を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> オンライン申請システムを活用することで、回答の集計作業の迅速化に繋がった。 | 社会福祉課 |
| 6 | | <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブ待機児童の保護者に対し、LoGoフォームを活用して長期休暇の利用希望アンケートを行い、市民の利便性向上と迅速な回収に繋がった。 | <ul style="list-style-type: none"> 郵送でのアンケート調査であれば、郵送料の発生や、集計までに時間が必要となるが、LoGoフォームを活用することで、迅速な事務処理が図られた。 | こども家庭課 |
| 7 | | <ul style="list-style-type: none"> 市民向け案内やアンケートにLoGoフォームを活用し、来庁等の負担の軽減を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> 紙でのアンケートや回答、申請に限られていたが、迅速な情報伝達が可能になった。 | 高齢福祉課 |
| 8 | | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスワクチン令和5年秋開始接種意向調査（全体9,682名/LoGoフォーム1,013名 10.5%） 内部被ばく検査申し込み（全体607名/LoGoフォーム143名 23.5%） がん検診意向調査（全体443名/LoGoフォーム41名 9.2%） ママパパ学級申し込み（全体20名/LoGoフォーム8名 40%） 食育おやこクッキング申し込み（全体20名/LoGoフォーム20名 100%） | <ul style="list-style-type: none"> LoGoフォームによって申請が24時間対応可能となったことで、申請希望者の利便性が向上し、職員側も申請情報の入力作業の削減などの効率化を実現できた。令和6年度から「乳がん集団検診申し込み」についてもLoGoフォーム対応としている。 | 保健センター |
| 9 | | <ul style="list-style-type: none"> 業務効率化のため、生成AIを活用し、市民への通知文等の作成や校正を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> 通知文などの作成に際し、文章の構成などに生成AIを活用したことにより業務時間が短縮され、効率化に繋がった。 | 農林水産課 |
| 10 | | <ul style="list-style-type: none"> 市営住宅修繕の申し出について、現場に駆け付けた職員が、軽微な修繕と判断する事案については、異常箇所をその場で撮影し、画像データとその内容をLoGoチャットで上席と共有しながら修繕の方向性を速やかに決めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ICT等を積極的に活用し、迅速な事務処理に努めたことで、入居者へ安心感を与え、適切な居住環境の提供と事務の効率化が図られた。 | 建築課 |
| 11 | | <ul style="list-style-type: none"> 福島県議会議員一般選挙及び相馬市議会議員一般選挙において、マイナポータル「ぴったりサービス」による不在者投票の投票用紙のオンライン請求の受付を実施した。 | <ul style="list-style-type: none"> 名簿登録地以外の市区町村に滞っている方が、滞在地の市区町村の選挙管理委員会ですら不在者投票を行う場合、名簿登録地の市区町村の選挙管理委員会に、郵送等で投票用紙を請求する必要があるが、オンライン請求の受付を可能にしたことにより、請求から選挙人に投票用紙を送るまでの時間を短縮できるようになった。選挙人にとっては、郵便や役所の営業時間を気にすることなくオンラインで請求が可能となることで、時間を節約することができ、また、投票用紙請求に係る郵送費の削減にも繋がっている。 | 選挙管理委員会事務局 |
| 12 | | <ul style="list-style-type: none"> 窓口で農地相談を受ける際、令和4年度に導入したタブレットを使用して、Googleマップによる航空写真等を確認しながら具体的な相談内容の把握に努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> 従前、相談者の説明を基に農地の状況を想像して相談に応じていたが、現在はタブレットを活用し、相談者及び受付者双方で農地や農地周辺状況を航空写真等を共有しながら、より具体的な相談に応じることが可能となった。 | 農業委員会事務局 |
| 13 | | <ul style="list-style-type: none"> 市内小中学校の児童生徒や保護者、教員を対象とした家庭学習アンケートをGoogleフォームを用いて実施した。 | <ul style="list-style-type: none"> これまでは、紙ベースの調査がほとんどであったため、調査結果の分析に至るまではかなりの時間と労力を必要としていた。Googleフォームを活用することで、データ集計の効率化が図られた。 | 学校教育課 |
| 14 | | <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進委員会議や男女共同参画会議などの会議の出欠確認のほか、歩け歩け大会、体力テスト、フラダンス教室などのイベントへの参加申し込みや、収蔵館で実施した企画展のアンケート調査などにLoGoフォームを活用した。 | <ul style="list-style-type: none"> LoGoフォームを活用することで、集計作業が簡略化され、業務の効率化が図られた。 | 生涯学習課 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

| | | | | |
|----|---|--|---|-------|
| 15 | | ・小学生を対象とした「中央こども教室」や若者向けを対象とした講座の申し込みに、LoGoフォームを活用（案内チラシにQRコードを付与）。 | ・申込受付時間（平日開庁時）の制限がなくなることから、申込者の利便性向上に繋がった。 | 中央公民館 |
| 16 | ・市民の利便性向上を図るため、各種申請やニーズ調査等に際しては積極的にLoGoフォーム等を活用するとともに、それに伴う行政側の手続きについても、ICT等を積極的に活用し、迅速な事務処理に努める。 | ・毎年12月に実施している「図書館の利用に関する調査」について、令和4年度まで紙媒体の用紙を来館者に配布していたが、令和5年度の調査からLoGoフォームを活用して回答ができるよう、調査の実施方法を改め、総数で128件（うちLoGoフォームからは14件）の回答があった。 | ・LoGoフォーム活用は、令和5年度が初めてであったため、回答・申込の数は多くなかった。また、図書館の利用者は高齢者が多いため、スマートフォン等の操作が苦手なことが原因として考えられるため、表示方法や文字の大きさ、設問内容をより簡潔にまとめる等の工夫を行い、実施を継続したい。 | 図書館 |
| 17 | ・行政側と各行政区長間において、必要な情報を正確に素早く伝達できるよう、ICT等を活用した情報伝達を図る。 | ・事務局（市総務課）と区長会役員との情報伝達手段として、グループコミュニケーションアプリ「BAND」を令和6年度から導入することについて、事務局内で協議、検討を行った。 | ・令和6年度、区長会役員会においてアプリの導入が決定した場合、区長会役員に対する情報伝達の効率化、正確な情報共有などが期待できる。 | 総務課 |
| 18 | ・行政サービスに対するオンライン申請の利活用を進めるため、利用者となる市民へ周知を行うとともに、申請受付する各課の職員のサポートを実施する。 | ・ぴったりサービス（オンライン申請システム）の特集記事を広報そうまに掲載した。 ・ぴったりサービスを活用した不在者投票に係る投票用紙のオンライン請求受付開始の記事を広報そうま及びホームページに掲載した。 ・引越し手続きオンラインサービスの案内を、広報そうま及び市ホームページに掲載した。 ・年間を通じ、職員に対して申請フォームの作成及び操作補助等を実施した。 | ・対外的なLoGoフォームの登録数が年度当初の86件から187件に増加した。 ・引越し手続きオンラインサービスを活用した転出受付数が151件、ぴったりサービスを活用した申請受付数が5件であった。 ・対外的なLoGoフォーム利用課が年度当初の17課から22課に増加した。 ・上記を通じ、各種手続きでの利便性が向上するとともに、職員の事務効率化が図られた。 | 情報政策課 |

基本方針：3. 行政サービス・事務事業の質的向上、効率化

重点事項：（2）事務事業の継続的改善

取組項目：①業務プロセスの見直しと効率化

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|--|--|---|---------|
| 1 | ・業務の迅速化と効率化のため、生成AIをはじめとしたICT技術等を積極的に活用し、その効果を分析・検証するとともに、文書のデジタル化を推進し、さらなる業務の改善を図る。 | ・職員にアンケートを実施する際や、研修レポートの提出については、Logoフォームを活用するなど、ICT技術の利活用を図った。 ・内部会議（例規審査会）に係る会議資料をデータによる配布とし、タブレット等を活用したペーパーレス会議に取り組んだ（行政管理係）。 ・生成AIを利用するに当たって、職員の読解力を向上させるため、管理職を対象としたリーディングスキルテスト研修を実施した（職員係） | ・職員もLogoフォーム等のITツールの利活用に慣れることで、データをまとめるための時間の短縮に繋がり、各業務における積極的な活用に繋がっている。 ・紙資源の節約及び業務の効率化に繋がった。 ・研修の実施等により、生成AI等を利用するための基礎的な文章理解力の向上が図られ、業務の効率化の一助となった。 | 総務課 |
| 2 | | ・図上訓練実施後の参加者へLoGoフォームを活用してアンケートを実施し、集計を生成AIを活用して行った。 | ・参加者から出た様々な意見のうち、類似の内容を項目ごとにまとめることができ、アンケート集計を見やすいものとする事ができた。また、次回図上訓練を実施する際の改善点のポイントを簡潔にまとめる事ができた。 | 地域防災対策室 |
| 3 | | ・土地売買等の際に行う法務局への不動産登記を書面申請からオンライン申請に変更した。 ・他課が起案し、財政課へ合議する一部の文書（寄附・流用）について、これまでコピーして保管していたものを、事務効率化のため、PDFデータへの保存へ変更した。 | ・オンライン申請に変更したことで法務局窓口での事務が軽減し、登記事務に要する時間が短縮した。 ・PDFデータ化したことで、データの検索がしやすくなり、事務改善・時間短縮に繋がった。 | 財政課 |
| 4 | | ・ChatGPTを、文章作成の際の文言の検討、文章の要約、英文翻訳、アイデア出し、Excelの効果的な使用方法（関数の使用方法など）の調査、データ成形などに活用した。 | ・調査や検討のプロセスにおいて業務の効率化が図られた。 | 企画政策課 |
| 5 | | ・Web会議等に適した機材（Webカメラ搭載モニター等）を導入し、Web会議へ参加しやすい環境を整備した。 ・32インチのモニター（スタンド・接続機器含）を各部に配置し、ペーパーレスでの打ち合わせができる環境を整備した（令和6年3月）。 | ・Web会議（特に複数少人数の会議）の準備等の効率化が進められた。 ・今後、ペーパーレスでの打ち合わせが実施されることで、打ち合わせに使用する紙の削減、資料を印刷するための手間や時間の削減が見込まれる。 | 情報政策課 |
| 6 | | ・市長あいさつ及び復命書等の作成にAI音声認識アプリを活用した。 | ・AI音声認識アプリを活用したことで、業務効率化や作成時間の短縮化、より迅速な情報発信が図れた。 | 秘書課 |
| 7 | | ・広報そうまや公式SNSへ掲載する記事の案文を作成。 ・文字数制限のある文章を作成する際に、条件を変えて複数の案文を作成することができた（漢字の利用や文体の変更など）。 ・英語等へ変換する際に活用した。 | ・文章の適正化、正確性の向上、事務効率化及び短縮化になった。 | 生活環境課 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

| | | | | |
|----|---|---|---|----------|
| 8 | | ・ LogoAIアシスタントを活用し、議会だよりの要約を行った。 | ・ これまで、議会だよりの一般質問の記事は、一般質問の会議録を職員が要約し、記事を作成していたが、LogoAIアシスタントを活用することによって、迅速かつ効率的な記事の編集が可能となった。 | 議会事務局 |
| 9 | ・ 業務の迅速化と効率化のため、生成AIをはじめとしたICT技術等を積極的に活用し、その効果を分析・検証するとともに、文書のデジタル化を推進し、さらなる業務の改善を図る。 | ・ 令和4年度に導入したタブレット端末を使用して、農業委員及び農地利用最適化推進委員による現地調査を実施した。具体的には、図面データをタブレット端末に保存し、印刷する図面を減らした。 ・ 「農業委員会だよりの」の配布について、関係農業委員会に対して、PDFによるデータ形式で提供することとした。 | ・ 現地調査時に、農業委員らのタブレットに図面データを格納することで、配布する図面を削減するとともに、手荷物が減り稼働しやすくなるため、円滑な調査が可能となった。 ・ 配布部数の見直しによる印刷部数の削減（需用費）とともに、「農業委員会だよりの」の郵送期間をかけず、即時メールでの提供が可能となった。 | 農業委員会事務局 |
| 10 | | ・ 市史編纂事業で、文章の内容校正などにChatGPTを活用した。また、文書のデータをPDF化し保存している。 ・ スポーツ施設の修繕に関する維持管理については、システムを作成しデータベースで管理することとした。 | ・ ChatGPTなどを活用することにより、文章の校正作業の効率化が図られた。また、文書をデータ管理することにより、執務スペースが確保された他、検索項目が容易になるなどの効果もあった。 | 生涯学習課 |
| 11 | ・ 行政経営システムに基づき、重点的に取り組む施策について目標を設定し、各段階でその成果や手段・手法等を検証することで、事務事業の改善を図る。 | ・ 60事業について業務目標を登録し、3度の検証（8月、11月、翌年度4月）を実施した。検証にあたっては、内部監査員によるチェックを実施し、内部監査員のこれまでの経験や知識を基に、登録した事務事業の進め方や今後の新たな取組み等について助言・提案を実施した。 | ・ 各段階で、内部監査員によるチェックを実施することで、年度途中であっても、業務目標の達成のために取組む業務に内部監査員の助言・提案を反映することができ、多くの事業で目標を達成することができた。 | 総務課 |
| 12 | | ・ 県主催の自主防災組織リーダー研修会に代表者が参加しやすいよう、市防災担当職員が随行して、市のバスで送迎を行うこととした。 | ・ 自主防災組織の代表者の参加が0名から2名に増えた。 | 地域防災対策室 |
| 13 | | ・ 市税収納率向上の取組みとして、納税組合による納期内納付や口座振替の推進、未納者への管理職特別収納活動、出張徴収、納税相談等を実施した。 | ・ 行政経営システムにおける業務目標の検証（年3回）の時点において、成果や課題等を精査し、監査員等の助言をもとに業務プロセスの必要な見直しを行った。 | 税務課 |
| 14 | | ・ 少子化対策事業（婚活イベント）の実施にあたり、行政経営システムの業務目標設定時に、イベント開催から逆算した広報の手法・スケジュールの検討を行い、また、リスクとして「イベント業者の実力（経験・スキル・アイデア）が不足する可能性に備えた対応」をあらかじめ検討し、リスクに備えるなど、十分な準備を行った。 | ・ 広報の効果もあり、定員を上回る応募があった。また、業者から提案された「マッチング方法」が十分洗練されていないという課題に対して、あらかじめリスクとして想定していたことで、マッチング方法を市から提案することにより解決した。 | 企画政策課 |
| 15 | | ・ 行政経営システムの業務目標に特定健診の受診率向上を設定し事業を実施した。これまで、保健センターが実施しているがん検診対象者、保険年金課が実施している特定健診対象者の各データを情報政策課を介し結合していたが、令和5年度は情報政策課を介さずに行った。 | ・ 関係課のみの作業となったことで、時間の短縮と業務の効率化に繋がった。 | 保険年金課 |
| 16 | | ・ 行政経営システムに基づき、業務目標「障がい者が安心して暮らすことができる環境の整備」を設定し、3期ごとに、その成果や手段・手法等について検証した。 | ・ 3期ごとに課題や今後改善する事項について検討することで、進捗管理を行いながら、事務事業の改善に努めることができた。 | 社会福祉課 |
| 17 | | ・ 子育てしやすい地域づくりのため、年間の目標を上回る子育て世代、親子を対象としたイベントを開催するとともに、参加者アンケートを実施することにより、満足度やニーズを把握し、次回のイベント企画の参考とした。 | ・ 子育て支援拠点として、イベントや親子教室の開催により、親子間及び保護者間の相互交流が図られ、子育ての孤立化の解消に繋がった。 | こども家庭課 |
| 18 | | ・ 健康づくりの推進の取組みについて、「いきいき相馬健康ポイント事業」の推進を実施した。 ・ 市内企業へ訪問し事業説明 13件 ・ 商工会議所会報に事業チラシ同封を依頼 ・ 保健協力員研修会等にて事業説明 ・ 献血時に事業チラシ配布 ・ 記入台紙提出 113人、専用アプリ新規登録者211人 合計324人 | ・ 日常的な運動の実施や食生活の見直しなど、健康に配慮した生活習慣を定着させるためのきっかけ作りに寄与できた。 | 保健センター |
| 19 | | ・ ホームページや広報そうまで、風評払拭や地産地消の推進のため情報発信を行った。 ・ 浜の駅で相馬産米を配布し、市農産物のPRを行うと同時に、農水産物に対する風評被害に関するアンケートを実施した。 | ・ アンケートの結果を積み重ねることで、意識の変化を捉えることができた。 | 農林水産課 |
| 20 | | ・ 農作物被害の予防と狩猟免許取得希望者向けの勉強会を年2回実施した。 ・ 実施隊員の射撃研修会を8回実施した。 | ・ 勉強会について、広報そうまや市ホームページなどに情報発信したことで、5名の参加があった。 ・ 射撃研修会を開催したことで、実施隊員の技術向上に努めることができた。 | 農林水産課 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

| | | | | |
|----|---|---|---|------------|
| 21 | | <p>・相馬復興市民市場「浜の駅松川浦」について、さらなるお客様の満足度と利便性の向上を図るため、増築の実施設計業務を発注し、設計業者や運営会社等と協議を重ね年内に完了した。</p> <p>・増築工事関連の財源確保のため、国のデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）の交付申請を行った。令和6年度増築工事関連予算について、3月市議会定例会に上程した。</p> | <p>・設計業者や運営会社等と協議を重ね、来客用トイレの増設や、寿司・魚の惣菜販売コーナー、イートインスペース、デジタルサイネージを設置する実施設計が完了した。</p> <p>・デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）が交付決定され、増築工事関連の財源確保ができた。3月市議会定例会にて令和6年度増築工事関連予算が承認議決された。</p> | 農林水産課 |
| 22 | | <p>・企業誘致の推進：2社へ2区画11.2ヘクタールを売却し、そのうち新規企業1社の誘致を実現した。</p> <p>・観光産業の振興：「福とら」プロモーション事業について、事業着手時点でトラフグの漁期の変更があったため、メディアへのPR広告期間等当初計画から変更して事業を実施した。</p> | <p>・企業誘致の推進：2区画を売却できたことで、今後、工場建設等により固定資産税の増収に繋がるとともに、新たな雇用創出に繋がることにより今後の定住人口等の増加にも期待できる。</p> <p>・観光産業の振興：当初計画に縛られることなく、関係者と協議を重ね柔軟な対応をしたことで、効果的なPR等を実施できた。</p> | 商工観光課 |
| 23 | | <p>・重点施策「秩序ある市街地の形成と新たな土地利用の検討（相馬市都市計画マスタープランの作成）」について、マスタープラン策定に必要な都市計画基本図（地形図）の作成及び都市計画基礎調査を実施し、完了した。</p> | <p>・計画準備の段階で、業務進捗管理表（作業項目を分類化（大分類、中分類）した工程表）を事業者と協議して作成・共有（発注者・受注者双方の認識共有）</p> <p>・実施段階で、事業者とは毎月複数回の打合せ協議を行い、協議の都度検証</p> <p>・毎月初めに事業者から進捗報告を受け、進捗度合いは業務進捗管理表で数値化</p> <p>・上記プロセス・手法等により、事業者との認識の齟齬や課題等の先送り等も極力排することができたことから作業の手戻り等もなくスムーズに業務が遂行した。</p> | 都市整備課 |
| 24 | | <p>・生活道路の整備（各地区の生活道路の整備）として、拡幅改良工事（3路線）の早期着工及び進捗管理の徹底について取り組んだ。</p> | <p>・各工事早期着工・進捗管理の結果、当該事業について計画通り令和5年内の完了となった。さらに、そのうち継続となる2路線においては、国補正予算（社会資本整備総合交付金）を活用し、次年度予定していた工事に前倒しで着手したことで、次工事までの空き期間を効率的に埋めるとともに、地元要望の早期実現が可能となった。</p> | 土木課 |
| 25 | <p>・行政経営システムに基づき、重点的に取り組む施策について目標を設定し、各段階でその成果や手段・手法等を検証することで、事務事業の改善を図る。</p> | <p>・業務効率化を目的に、市営住宅修繕の申し出について、現場に駆け付けた職員が、軽微な修繕と判断する事案については、異常箇所をその場で撮影し、画像データとその内容をLoGoチャットで上席と共有しながら修繕の方向性を速やかに決めている。</p> | <p>・業務プロセスの見直しと効率化を図ることで、決定までの時間を削減でき、残業時間の縮減に繋がった。</p> | 建築課 |
| 26 | | <p>・令和5年度は、「下水道施設の計画的な維持管理に努め、長寿命化や、将来にわたって必要な機能を発揮し続けるための取り組みを推進」、②「移動式排水ポンプ車の効果的な運用及び、実現可能な浸水対策案の検討」の2点を業務目標とし取り組んだ。①については、下水道ストックマネジメント全体計画の策定及び施設の耐震・耐津波の調査を計画通り実施した。また、②については、市総合建設業組合との排水ポンプ車の訓練を年3回行い、排水ポンプ車の操作訓練等を実施した。</p> | <p>①を実施することで、下水道の長期的な運営を行い市民サービスを確保することが期待できる。</p> <p>②については、大雨などの災害に備え、緊急的なポンプ車配備にも対応することができ、市民の安全を確保することが期待できる。</p> | 下水道課 |
| 27 | | <p>・毎月の支払日がわかるように支払カレンダーを掲示板で周知した。</p> <p>・伝票起票に携わる職員用に財務会計説明会を開催した。また、説明会を開催するにあたり、事前・事後アンケートを実施した。</p> | <p>・明確な支払日とそれに伴う会計課への伝票締切日までの提出の意識が向上し、納入期限までの支払漏れが少なくなった。</p> <p>・具体的な事例や注意事項を説明したことで、伝票処理の誤りによる差戻し率は減少傾向となった。また、事前アンケートを実施し、受講者の疑問に対して回答した。その結果、事後アンケートでは、多くの受講者から理解が深まったとの結果が得られた。</p> | 会計課 |
| 28 | | <p>・市民に開かれた信頼される議会運営を目指すことを業務目標とし、目標達成のための事業のひとつとして議会報告会を開催した。令和5年度に開催した議会報告会では新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、座席を市民が発言しやすい円形の配置に見直した。</p> | <p>・開催後の議員を対象にしたアンケートでは、円形の座席配置により市民が発言しやすい雰囲気が醸成され、改善して良かったとの意見が寄せられた。</p> | 議会事務局 |
| 29 | | <p>・福島県議会議員一般選挙及び相馬市議会議員一般選挙のポスター掲示板的購入の際、仕様書で掲示板的の材質を再生パルプ製ボードから再生パルプ製ボードまたはアルミ複合ボードに変更した。</p> | <p>・仕様書を見直し、掲示板の材質にアルミ複合ボードを追加したことにより、アルミ製掲示板を取り扱っている業者が入札に参入することができ、競争がうまく機能し、両選挙ともポスター掲示板的の購入に係る経費を削減することができた。</p> <p>県議：予算額 957,000円 支出額 275,000円 差額 682,000円 市議：予算額 2,970,000円 支出額 1,320,000円 差額 1,650,000円 差額合計 2,332,000円</p> | 選挙管理委員会事務局 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

| | | | | |
|----|---|--|---|-----------------|
| 30 | | <p>・「令和5年度監査計画」に基づき、監査等の実施や計画・結果等の公表、研修の受講など計画的に行った。</p> | <p>・監査計画に基づき、都市監査関係団体の研修や意見交換会に参加することで知識を習得し、計画通りの監査事務補助を行うことができた。また、他市の情報や知識を得たことで、住民向けの「住民監査請求の手引き」や、職員向けに「監査だより」を作成し、情報の提供に繋がっている。</p> | <p>監査委員事務局</p> |
| 31 | | <p>・毎月の農業委員会総会でのOJTに加えて、農地法に関する基本事項のほか、タブレット使用方法や法令解釈（立地基準）に必要な演習を農業委員らに対し実施した。</p> <p>・農家に配布する農作業労働賃金標準額表印刷に使用する用紙について、在庫を利用し、不足分のみ購入することとした。</p> <p>・農業委員等の研修資料について、事務局独自で作成し、図書の購入を控えた。</p> | <p>・農地法の法令解釈や地域課題について、演習を通して農業委員らと共有を図ることができた。</p> <p>・タブレットの有効活用により、円滑な現地調査に資することとなった。</p> <p>・図書に係る需用費の節減を行った。</p> | <p>農業委員会事務局</p> |
| 32 | | <p>重点目標として、下記の3事業に取り組んだ。</p> <p>・「芸術文化活動の推進」では、そうま音楽夢工房事業において、4年ぶりに親子向けコンサートを開催した。また、新規スタッフが2名加入するなど、今後の事業継続に向けた足がかりとなる取り組みができた。</p> <p>・「歴史伝統文化の継承と保存」では、東日本大震災以降、福島県沖地震も含め、中村城内の石垣など、被災した遺構の災害復旧に係る基礎調査を実施し、石垣復旧などに対応できるデータの蓄積に努めることができた。</p> <p>・「スポーツ施設の利活用」では、スポーツアリーナの復旧工事も順調に終了し、前年に比較して利用者が約5万人増加した。</p> | <p>・「芸術文化活動の推進」では、広く市民が良質な音楽に触れる機会を提供するとともに、自ら創りあげる芸術文化活動への参加を促進することができた。</p> <p>・「歴史伝統文化の継承と保存」では、中村城跡の復旧事業に必要なデータを蓄積することができた。</p> <p>・「スポーツ施設の利活用」では、スポーツアリーナの復旧工事も順調に終了し、令和4年度と比較して利用者が約5万人増加し、市民が生涯にわたり健康で豊かな生活を送るためのスポーツ施設を提供をすることができた。</p> | <p>生涯学習課</p> |
| 33 | <p>・行政経営システムに基づき、重点的に取り組む施策について目標を設定し、各段階でその成果や手段・手法等を検証することで、事務事業の改善を図る。</p> | <p>・「多様化する住民ニーズや高度化する社会状況に対応した学習機会を提供する」という目標を立て、定期的に検証し事務事業の改善を図りながら、①各種教室（令和5年度 25教室）の運営サポート、学習発表会の開催（11月18日及び19日開催、来場者274名） ②企画講座の開催（23講座96回）により、学習機会の提供を行った。</p> | <p>・「学習発表会（コロナ渦以降4年ぶり）」、「御仕法通りに作品や教室紹介を展示」を実施することで、学習意欲の向上及び新たな教室生の参加に繋がった。</p> <p>・企画講座は、当初予定回数（67回）を大きく上回る回数（96回）の開催となり、多様な学習の機会を提供できた。また、講座参加者の満足度は、91%の方が「良かった」以上の回答となっており、学習の成果も高いものであった。</p> | <p>中央公民館</p> |
| 34 | | <p>・多様化する地域住民のニーズやコロナ禍後を見据え、新規企画講座の開催や学習機会の増加を目標にし、自主運営教室のサポート、特別企画講座の計画・運営を行った。参加者が高齢化する中、関係機関・団体や企業と連携しながら開催継続や新規企画講座の開催を実施した。参加者間のコミュニケーションが活発化していることから、様々な特別企画講座への参加者増に繋がっている。なお、第1～3期ごとに検証し事務事業の改善を図った。</p> | <p>・関係機関・団体や企業と連携して様々な特別企画講座を開催したことから、参加者間のコミュニケーションが活発化するとともに、学習の成果も見られる講座もあり、多くの講座を開催することで参加する機会が増え参加者増に繋がった。その中でも「そば打ち教室」の教室生は、自主的な活動を実施しており、講師の勇退後に、技術習得した教室生による他地区公民館教室での技術指導の承諾を得て、指導体制等の検討・協議を重ね、令和6年度に向けて「そば打ち教室」の継続開催と他地区公民館での指導を実施する方向で協力を得ることができた。受講生の自主的な活動による新たな教室のあり方を模索しながら、可能な限り、最善の対応を講じて活動を継続できるようになった。</p> | <p>東部公民館</p> |
| 35 | | <p>・高齢化や多様化する住民ニーズに対応した柔軟な学習機会を提供する目標を立て、自主運営教室のサポート、企画教室の運営、地区のパークゴルフ大会、グラウンドゴルフ大会開催などを継続実施しつつ、第1～3期ごとに検証し事務事業の改善を図った。</p> | <p>・事前の内外の課題の把握、リスクと例外の対処を想定することで、受講生からの新たな要望、大会等役員会からの急な要望、感染症不安対策等をその都度、可能な限り最善の対策を講じながら事業を進めることができた。</p> | <p>大野公民館</p> |
| 36 | | <p>・公民館まつり（学習発表会）の開催により、公民館教室利用者の学習意欲の向上、地区住民の公民館に対する理解及び利用促進を図ることを業務目標とし、実行委員会の開催から発表内容等の企画調整、会場準備から片付けまで、各段階で検証を重ねながら実施した。</p> | <p>・過去3年間の新型コロナウイルス感染症対策により、ステージでの発表は4年ぶりとなったため、会場設営レイアウトや小学生の協力出演の是非、綿あめや豚汁の提供方法等、実行委員会で検討し、コロナ前の実施方法にとらわれることなく工夫改善することができ、340名の来館者数を達成できた。</p> | <p>飯豊公民館</p> |
| 37 | | <p>・多様化する住民ニーズや高度化する社会状況に応じた学習機会を提供するため、地区ごとに培われてきた特色ある事業を継続・発展させることにより、各地区の独創的な地域創成を支援することを業務目標とし、ふるさと伝承教室、地域ふれあい教室（化石採取）、特別企画講座を実施した。</p> | <p>・「地域ふれあい教室（涼ヶ岡八幡神社見学）」と「みどりのふれあい広場」は神社の修繕の遅れや講師の都合などにより前年度同様開催できなかったが、「庭木・垣根等植栽剪定教室」、「着付け講座」、「楽しい太極拳教室」など新規企画講座を企画し、開催することができた。令和5年度の実績は、特別企画講座の開催数が23回、参加人数延人数が299名で、前年度と比較すると、開催数10回の増、延参加人数170名の増となり前年度を大きく上回った。</p> | <p>八幡公民館</p> |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

| | | | | |
|----|--|---|--|--------|
| 38 | | ・学習展を開催することで教室生の活動意欲を増進させることを業務目標とし、実行委員会において企画検討し実施した。また、コロナ禍で減少した住民の交流の機会を公民館特別講座を中心に再生するため、出前講座を利用した講座や、健康増進の講座などを実施した。 | ・学習展は、大雨やコロナ禍の影響により5年ぶりの開催になったが、実行委員会において各部門の打合せを行い、作品展示方法やそばの提供場所の変更など工夫を凝らしたより良い学習展となった。また、企画講座については、前年度より26回多い33回の講座を実施し、参加人数は269名と前年度の参加人数84名を上回った。 | 日立木公民館 |
| 39 | | ・塩山山開きや体育振興事業などの終了後、反省会、アンケート調査を行い次回に繋げるよう記録に残した。 | ・来年度事業で改善する内容の資料を作成し、どのように事業を行うか検討した。 | 山上公民館 |
| 40 | ・行政経営システムに基づき、重点的に取り組む施策について目標を設定し、各段階でその成果や手段・手法等を検証することで、事務事業の改善を図る。 | ・「多様化する住民ニーズや高度化する社会状況に対応した学習機会を提供する」という目標で事業の検証や改善を図りながら、令和5年10月以降パークラフトやスコープ三味線などの企画講座を継続実施した。次年度はその成果を発表する機会として「敬老会」を計画している。 | ・「学習機会を提供する」目標達成のため、「敬老会」での発表を計画した結果、企画講座の学習意欲の向上、参加者の増加及び講座の継続実施などの効果があった。パークラフトは6回実施で50名、スコープ三味線は5回で55名が参加しており、作品の展示や演奏できる曲目が増えるなど、教室生のスキルアップが図られた。 | 玉野公民館 |
| 41 | | ・学習意欲の向上と公民館の利用促進を図るため、多様化する住民ニーズに対応した学習する場を提供する特別企画講座と、公民館教室生の日頃の練習の成果を披露するための教室発表会を開催した。教室発表会については、教室生が自主的に動けるよう教室発表会実行委員会を立ち上げ、開催するまでの補助（サポート）の役割を担った。 | ・企画講座の開催回数は前年度の12回を上回り28回（233%増）と住民が参加できる機会を増やした結果、参加人数は前年度の91名を大きく上回り今年度255名（280%増）となった。また、企画講座受講後は満足度調査をし、その中で指摘のあった改善点を踏まえて次回講座の開催を行った。令和5年度の企画講座の満足度の結果は、満足やや満足と回答（満足度が100%）があり、住民ニーズに答えた形で開催が出来た。 | 磯部公民館 |
| 42 | | 市民会館の利活用促進のため、下記のとおり実施した。 ・令和5年11月1日より、公民館との連携事業を開始した。 ・新たな広報媒体（LINE、デジタルサイネージ、「ふくしま文化情報」）にイベント情報を掲載した。 ・高校生の文化活動で市民会館を利用してもらうようPRに努めた。 | ・公民館との連携事業の結果、令和6年1月20日に、大野公民館教室女性コーラスLaLaLaコンサートを実施し、リハーサル及びコンサート本番を併せて224名が利用した。 ・イベント情報の発信手段を増やしたことにより、新規利用者獲得のきっかけとなった。 ・令和5年9月7日に相馬高校文化祭を実施し、リハーサル及び本番を併せて920名が利用した。 | 市民会館 |
| 43 | | ・内部監査の結果は、「指導」、「軽微」、「重大」、「推奨」事項に分けて報告してもらっているが、内部監査員からの積極的な提案を促すため、監査を通じて気付いた事務事業の改善に繋がる事項についても、指導事項として報告を求めることとした。 | ・監査員からの提案が活発となった事で、各課の事務の見直し、改善に繋がった。 ※令和4年度監査結果 推奨8件、軽微な指摘1件 令和5年度監査結果 推奨18件、指導（改善）事項35件 | 総務課 |
| 44 | ・事務事業の改善と市民サービス向上のため、おくやみコーナーの運用に伴う業務の検証・改善により、各種手続きに係る遺族の負担軽減と事務処理の効率化を図る。 | ・エクセル版の入力シートを作成し、届出人（遺族）の書類記入の負担軽減を図った。また、遺族向けの案内ハンドブックに、行政手続き以外の手続きも一覧で掲載し、該当する手続きについて関係機関に問合せできるようにした。 | ・死亡に係る手続き窓口を1箇所を集約したことにより、遺族の負担軽減に繋がった。 | 市民課 |
| 45 | ・要介護状態の軽減や介護予防の推進のため、リハビリテーション専門職と連携した講習会を実施することなどにより、骨太けんこう体操のさらなる普及促進と継続を図る。 | ・広報そうま、庁舎内インフォメーション機器で体験教室を案内したほか、LINE、X(旧Twitter)で「リハビリテーション専門職と連携した介護予防講習会」の周知を行い、介護予防の取組みへの参加促進に努めた結果、体験教室に延342名、介護予防講習会に延100名の参加者があった。 ・北高野集会所、中央児童センター等5箇所が出前講座を実施した。 | ・骨太けんこう体操の任意団体5団体（52名）が新規で登録となった。 ・東部公民館で活動する団体（5名）の体力測定（立ち上がりテスト、2ステップテスト）の結果、筋力等が大幅に低下することなく維持されていることを確認できた。 | 高齢福祉課 |
| 46 | ・子どもたちの読解力向上のため、RST（リーディングスキルテスト）及び各種学力調査の分析結果をもとに、不断の授業改善に取り組む。 | ・RST分析結果活用に係る学校訪問（各校1回）での分析結果活用についての指導助言や校内研修会等への指導訪問（年間28回）での指導助言、研修会等を通して授業改善に取り組んだ。 | ・RSTを柱に授業改善に取り組んできたことで絞り込みが図られ、教材研究が充実してきた。それにより教科書をじっくり正確に読む児童生徒の姿が増えてきた。また、全国学力・学習状況調査においても、小学校では国語の教科において全国平均を上回った。 | 学校教育課 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

基本方針：3. 行政サービス・事務事業の質的向上、効率化

重点事項：(3) 公共施設の効率的な管理運営

取組項目：①公共施設使用料等の適正化

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|--|---|---|-------|
| 1 | ・社会教育施設等の適正な維持管理と利活用に努めるとともに、利用料金の適正化及び市民サービスの向上を図る。 | スポーツ施設について、下記の修繕を実施した。 ・スポーツアリーナそうま修繕：14件、4,437,540円（柔剣道場照明LED化修繕等） ・ビーチバレーコート修繕：2件、355,190円（ネットフェンス修繕等） ・角田公園テニスコート修繕：5件、787,160円（ネットポスト修繕等） ・光陽サッカー場修繕：11件、1,197,900円（スプリングラウズ用電磁弁修繕等） ・光陽ソフトボール場修繕：2件、50,600円（不凍水栓柱修繕等） ・光陽パークゴルフ場修繕：9件、3,276,900円（ポンプ設備警報ケーブル修繕等） ・市民プール修繕：6件、1,325,500円（パワーアンプ修繕等） ・相馬こどもドーム修繕：5件、1,250,700円（屋根膜修繕等） ・その他修繕：21件、5,031,191円（長友グラウンド照明修繕等） ・合計：75件、17,712,681円 | ・スポーツ施設について、左記修繕を実施し、適正な維持管理に努め、利用者のサービスの向上をはかることができた。 | 生涯学習課 |
| | | ・定期点検を毎日実施し、市民会館の適正な維持管理に努めた。 ・市民会館の接遇方針に基づき、職員の接遇向上を図った。 ・職員に館内設備に関する研修を行うとともに、施設・設備のマニュアルを改訂した。 | ・定期点検を行うことで、日々修繕箇所を把握することができ、大規模な修繕を予防できた。 ・職員の接遇の状況確認や、設備に関する研修及びマニュアル改訂により、音響や照明などの設備の操作について、利用者が安全かつ適切に使用できるようになった。 | 市民会館 |

基本方針：3. 行政サービス・事務事業の質的向上、効率化

重点事項：(3) 公共施設の効率的な管理運営

取組項目：②老朽公共施設等の見直し

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|--|---|--|--------|
| 1 | ・相馬市公共施設等総合管理計画（公営住宅）に基づく市営住宅の管理について、毎年度PDCAサイクルにより計画の進捗管理を図ることで、施設の見直しや計画的な改修等に努める。 | ・老朽化した政策空家の解体6戸（清水団地3戸、長谷堂団地3戸） ・刈敷田団地給排水設備改修工事（年度繰越）10戸 | ・政策空家の解体により、地震等による損壊や台風等の強風で屋根や外壁等が飛散することがなく近隣への被害を防ぐとともに、給排水設備の改修により、住戸内の漏水対策を行った。今後も予防保全的な維持管理を行い、市営住宅団地の用途廃止及び市営住宅の長寿命化を図る。 | 建築課 |
| 2 | ・道路構造物のライフサイクルコスト削減のため、相馬市公共施設等総合管理計画等に基づき、橋梁及びトンネルの点検、長寿命化修繕を推進する。 | ・法定点検（橋梁28橋）、修繕設計（橋梁2橋）、修繕工事（橋梁1橋）を実施した。 | ・予防保全型として管理することで、維持管理コストの削減を図ることができた。さらに、次年度に計画していた修繕設計（橋梁2橋、トンネル2箇所）について、国の補正予算（道路メンテナンス事業費補助）を活用し、前倒しして着手することができた。 | 土木課 |
| 3 | ・下水道施設が将来にわたって必要な機能を発揮し続けられるよう、適切な維持管理に向けたストックマネジメント計画の見直しを図る。 | ・長期的な視点での施設管理の最適化を図るため、令和5年度は、相馬市下水処理場、小泉川ポンプ場、松川ポンプ場、細田ポンプ場及び原釜排水機場のストックマネジメント全体計画を策定した。 | ・今後50年の間に施設の更新等に必要となる概算費用を算出することで、単年度あたりに要する更新費用を算出し、短期間の間に市の負担が増えることを防ぎ、偏りの少ない下水道経営の効果を得られる。 | 下水道課 |
| 4 | ・児童生徒数の将来予測を踏まえ、適宜、学校遊具更新計画の見直しを行い、効率的な遊具の更新・維持管理を図る。 | ・学校遊具更新計画の見直しを行った上で、日立木小学校及び磯部小学校に遊具の設置を行った。また、遊具の安全点検を行い、老朽箇所や危険個所の修繕対応を行った。 | ・学校遊具更新計画に基づいて更新を行うことで、児童の安全を図ることができた。また、山上小学校へ木製遊具の寄付を受けたことで、磯部小学校への遊具設置を1年前倒しで実施できた。 | 教育部総務課 |

第6次相馬市行財政改革大綱の取組項目にかかる実施計画の実績

基本方針：3. 行政サービス・事務事業の質的向上、効率化

重点事項：(3) 公共施設の効率的な管理運営

取組項目：③指定管理者制度の積極的な活用

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|---|---|--------|
| 1 | ・民間のノウハウを活かした手法を積極的に活用し、業務の効率化及び市民サービスの向上を図る。 | ・従前に引き続き、市所有集会所16施設及び防災集会所10施設について、地元自治会等を指定管理者とした管理運営を行った。 | ・実際に利用する地区住民が主体となって管理運営することにより、実態に即した施設の柔軟な活用に繋がった。 | 総務課 |
| | | ・指定管理者制度を活用し、東部子ども公民館、西部子ども公民館、中央児童センター、川原町児童センターの円滑な事業実施と管理運営を行った。 | ・各施設において、世代間交流、親子教室、放課後児童クラブ等を実施し、地域の子育て支援事業者として、子育て世帯の交流やサポート、放課後の児童の健全な育成を図ることができた。 | こども家庭課 |
| | | ・相馬復興市民市場「浜の駅松川浦」において、風評払拭や交流人口の拡大を図るため、相馬市民市場(株)を指定管理者とし、地元農水産物等の販売や地元水産物を使用した毎月のふるまいイベントを行った。 | ・指定管理者である相馬市民市場(株)の民間のノウハウを生かした事業を展開したことで、令和5年度のレジ通過者は268,604名となり、多くの方々にご来店いただきました(令和4年度：240,174名)。 | 農林水産課 |
| | | ・「観光産業の振興」：昨年に引き続き、指定管理者制度を活用。シダックス大新東ヒューマンサービス(株)に「道の駅そうま」物産館の管理運営委託をした。民間ならではの工夫を凝らした毎月のイベントが実施された。また、施設内のディスプレイ(デジタルサイネージ)の工夫等がなされた。 | ・指定管理者制度を導入したことで、多様化する利用者ニーズに対し、民間のノウハウを活用することで柔軟かつ効果的な対応をすることができた。また、複数年での事業展開がなされるため、施設管理業務の効率化や経費削減等の効果も期待できる。 | 商工観光課 |
| | | ・郷土蔵、松川浦スポーツセンター、相馬光陽パークゴルフ場、相馬光陽ソフトボール場、相馬光陽サッカー場、復興交流支援センターの5つの施設を指定管理によって管理運営した。 | ・指定管理者となるNPO法人等と連携して施設の運営に努め、業務の効率化及び市民サービスの向上を図ることができた。 | 生涯学習課 |

基本方針：3. 行政サービス・事務事業の質的向上、効率化

重点事項：(4) 災害時の行政サービスの継続

取組項目：①BCP(業務継続計画)等に基づく業務の継続

| | 実施内容 | 実施内容の実績 | 取組項目の効果 | 担当課 |
|---|---|--|--|-------|
| 1 | ・災害時における業務継続には行政区長との連携や被害状況の迅速な把握が必要となるため、行政区長災害対応マニュアルを改訂し、相互の情報共有を図る。 | ・改訂内容について、引き続き検討中。 | — | 総務課 |
| 2 | ・災害時における雨水排水機能の維持のため、移動式排水ポンプ車の効率的・効果的な運用体制を確立するとともに、排水施設の整備、機能強化等について検討する。 | ・災害時における迅速な対応と効果的なポンプ車の活用を行うため、国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所(6月)及び相馬市総合建設業組合(9月・11月)と合同訓練を実施した。 | ・ポンプ車訓練を繰り返し実施することで、突発的に発生した災害による冠水などにも迅速に対応できる効果が期待できる。 | 下水道課 |
| 3 | ・災害時における議会の対応等を定めた「議会BCP」の策定に向け、他市町村の状況調査や情報収集を行うことで支援して行く。 | ・議会BCPの策定に向け、議会運営委員会で6度の協議を行い、策定までのスケジュールを決定し、令和6年5月に早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員による議会BCPに関する研修会を開催することを決定した。 | ・協議の中で、非常時でも議会活動を継続するための議会BCPの策定の必要性が認識された。 | 議会事務局 |